

令和6年度

学校評価



山江村立山江中学校

アンケートの観点と質問内容

分野	番	観 点	生徒へのアンケート内容	教職員へのアンケート内容	保護者へのアンケートの内容
確かな学力の定着	1	わかる授業の展開	授業は、楽しく分かりやすい。	楽しく分かりやすい授業を行っている。	子供は、授業が楽しく分かりやすいと言っている。
	2	自ら学ぶ力の育成	授業では、生徒に考えさせたり活動させたりしている。	授業では、生徒に考えさせたり活動させたりしている。	※質問設定なし
	3	個に応じた指導の充実	先生は、一人一人の力を伸ばそうとしている。	一人一人の力を伸ばすよう努力している。	学校は、一人一人の力を伸ばすよう努力している。
	4	質問や疑問への対応	先生は、質問に適切に答えている。	生徒の質問に適切に答えている。	※質問設定なし
	5	学習の適切な評価と対応	先生は、生徒の能力や努力を適切に評価している。	生徒の能力や努力を適切に評価している。	学校は、子供の能力や努力を適切に評価している。
	6	家庭学習の充実	自分は家庭学習の習慣が身についている。	生徒に家庭学習の習慣が身についている。	子供に家庭学習の習慣が身についている。
豊かな心の育成	7	あいさつ、礼儀の状況	あいさつのよくできる学校である。	あいさつのよくできる学校である。	子供は、あいさつがよくできている。
	8	いじめや差別を許さない学校づくり	先生は、いじめや差別を許さない心を育てる指導をしている。	いじめや差別をやるさない心を育てる指導をしている。	学校は、いじめや差別をやるさない心を育てている。
	9	教育相談の充実	先生は、生徒が困っていることについてよく対応している。	生徒が困っていることについてよく対応している。	学校は、子供が困っていることについてよく対応している。
	10	よりよい生き方、豊かな心の指導	先生は、人の生き方や豊かな心の在り方について教えている。	人の生き方や豊かな心の在り方について教えている。	学校は、人の生き方や豊かな心の在り方について教えている。
	11	読書指導の充実	先生は、読書するように勧めている。	本を読むように指導している。	※質問設定なし
	12	安心して登校できる学校づくり	先生は、一人一人が楽しく登校できるよう努力している。	一人一人が楽しく登校できるよう努力している。	※質問設定なし
	13	自主的・自発的な活動の推進	生徒会活動や学級の係活動が活発に行われている。	生徒会活動や学級の係活動が活発に行われている。	生徒会活動や学級の係活動が活発に行われている。
健康教育の推進	14	安全教育の充実	学校で落ち着いた安全な生活ができる。	生徒たちが学校で落ち着いた安全な生活を送っている。	子供は、学校で落ち着いた安全な生活を送っている。
	15	体力づくりの指導	体育の授業や部活動で体力が向上している。	体育の授業や部活動で体力が向上している。	※質問設定なし
	16	保健教育の充実	先生は生徒の心やからだの健康づくりについて指導している。	生徒の心やからだの健康づくりについて指導している。	学校は、生徒の心やからだの健康づくり努めている。
	17	健康管理の徹底	先生は、生徒の体調が悪くなつたとき適切に対応している。	生徒の体調が悪くなつたとき適切に対応している。	※質問設定なし
	18	給食指導の充実	先生は、給食を通して、食の大切さを教えていている。	給食を通して、食の大切さを教えている。	学校は、給食を通して、食の大切さを教えてている。
教育環境整備	19	掲示物の工夫・充実	教室や廊下等の掲示物をきちんと整備している。	教室や廊下等の掲示物をきちんと整備している。	※質問設定なし
	20	花いっぱい運動の推進	学校は、花や緑が多くきれいである。	学校の花壇には、花が植えてあり整備している。	学校の花壇には、花が植えてあり整備されている。
	21	清掃指導の充実	掃除や美化活動に、積極的に取り組む雰囲気がある。	清掃指導に力を入れ、美化が徹底している。	学校は、清掃指導に力を入れ、美化が徹底されている。
	22	安全管理の徹底	学校は、安全で快適な環境であり、施設が整っている。	安全で快適な環境を築くため、施設の整備に力を入れている。	学校は、安全で快適な環境を築くため、施設の整備に力を入れている。
生活全般	23	楽しい学校・学級づくり	学校が楽しい。	学校が楽しいと言える学校・学年・学級づくりをしている。	子供は、学校が楽しいと言っている。
	24	積極的な情報発信	学校ホームページや各種便りなどで、情報を提供している。	学校ホームページや各種便りなどで情報を提供している。	学校のホームページや各種便りなどで、情報を提供している。
	25	部活動の充実	部活動は、自分の生活や生き方にプラスになっている。	部活動は、生徒たちの生活や生き方にプラスになるよう指導している。	部活動は、子供たちの生活や生き方にプラスになっている。
	26	I C T 教育の推進	※質問設定なし	※質問設定なし	学校は、特色ある教育(ICT教育等)に積極的に取り組んでいる。
	27	地域との連携	地域の行事に積極的に参加している。	地域と連携して、子供たちを育てるように努めている。	地域と連携して、子供たちを育てるように努めている。

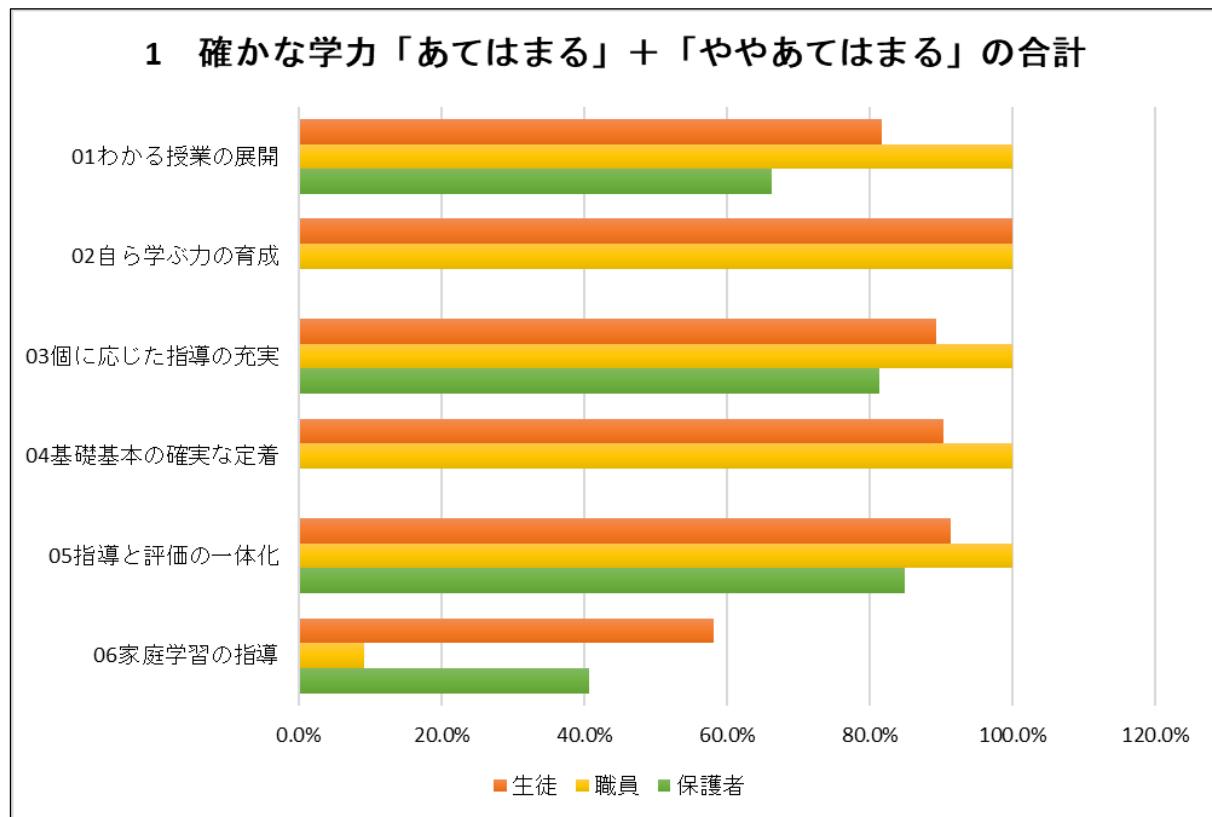
1 確かな学力の定着について

※小数第1位を四捨五入のため合計が100%にならない場合あり

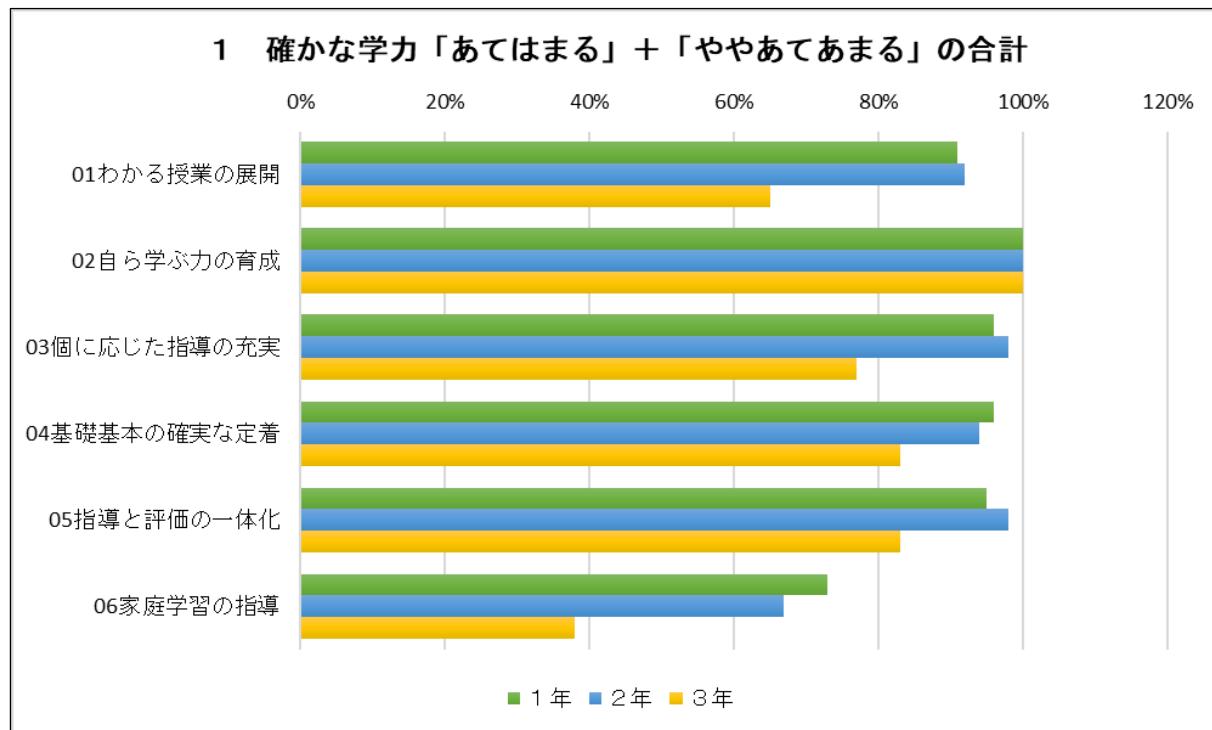
(1) アンケート調査の結果

【 図1－1 確かな学力の定着に関する生徒、教職員、保護者の意識 】

※調査数 生徒 93 教職員 11 保護者 86



【 図1－2 確かな学力の定着に関する学年ごとの生徒の意識 】



(2) 考察

① わかる授業の展開

生徒の肯定的な回答は82%であり、昨年度の85%という回答をやや下回っている。また保護者の回答では、さらに否定的な回答が約34%という結果である。生徒が関心・意欲を高め、主体的に学習に取り組むような授業改善にさらに取り組むこと、保護者に対しても、積極的に授業公開を行うなど、本校が目指している授業づくりについて理解していただけるようにしていく必要がある。

② 自ら学ぶ力の育成

全ての生徒が授業の中で主体的に学びに取り組むことができていると回答している。この点に関して、教師との乖離も少ない。校内研修でも「主体性」をキーワードに積極的な授業改善を行ってきた。今後は実践の検証とともに、継続的に研究実践を行い、更なる向上を目指す。

③ 個に応じた指導の充実

生徒の89%、教職員の全てが、一人一人を伸ばす指導を肯定的に捉えている。保護者からは18%の否定的な回答がある。保護者のこの回答の背景、判断の材料が何なのか、子供たちの声も伝えながら、保護者の理解も図っていきたい。

④ 質問や疑問への対応

生徒の92%が疑問や質問に対応してもらえてると回答している。また、教職員も同様に生徒の疑問や質問に適切に対応しているととらえていることがうかがえる。②とも関連するが、授業の中で、生徒に任せる時間、生徒が主体となる時間が多くの中、教師のファシリテーター的役割の再確認も含めて、さらに質問しやすい雰囲気づくりを行っていきたい。

⑤ 学習の適切な評価と対応

生徒は91%、教職員は全てが適切に評価をしていると肯定的に捉えている。保護者の回答が85%とそれをやや下回っている。昨年度から、単元別テストを重視すし、より客観的な記録や資料をもとにした評価を行っている。今後も、評価の妥当性について積極的に保護者へ説明していきたい。

⑥ 家庭学習の充実について

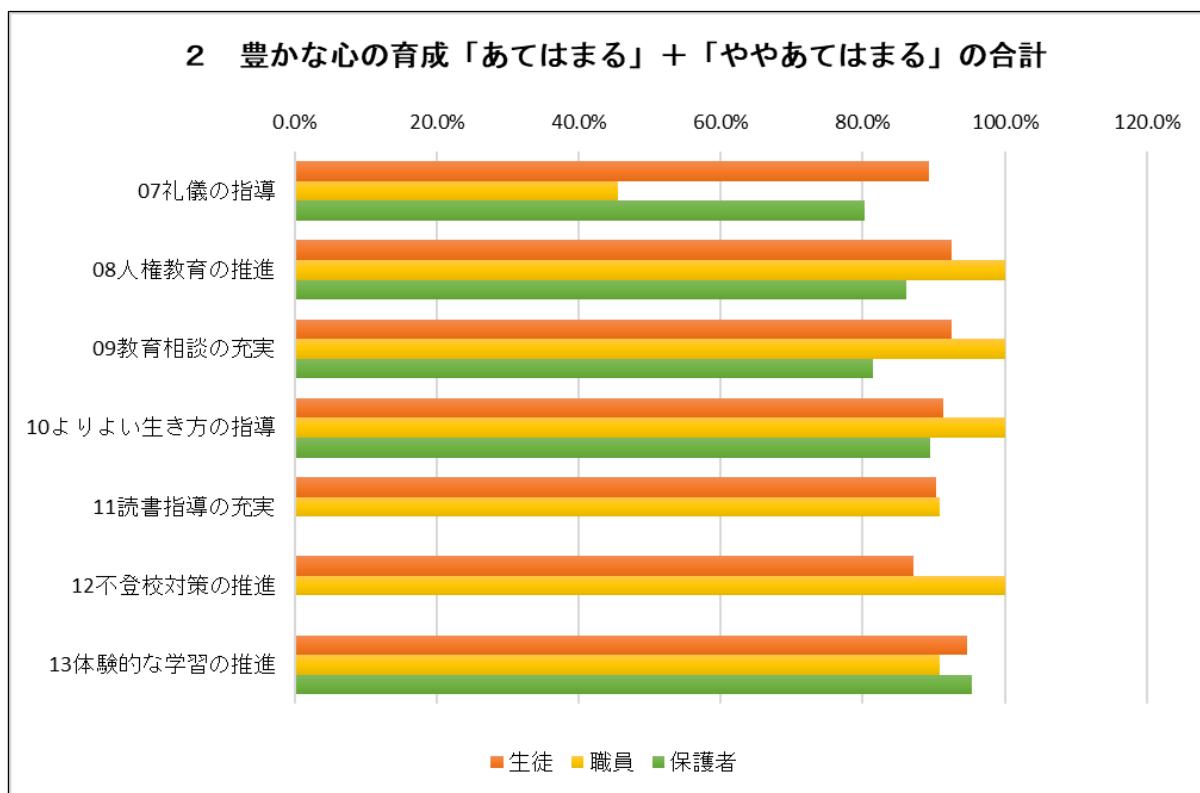
家庭学習については、肯定的な回答は生徒が58%、教職員9%、保護者41%である。昨年度（生徒70%、教職員0%、保護者28%）という結果との比較も含めて、改善に向けて重点的に取り組む項目であることは間違いない。「フォーサイトノート」を活用し、学校からの帰宅後や休日の家庭での生活を記録し可視化したり、家庭学習のアプリを活用したり、個に応じた家庭学習ができるように整備している。このことを保護者（家庭）としっかりと共有し、連携を図っていく必要がある。

2 豊かな心の育成

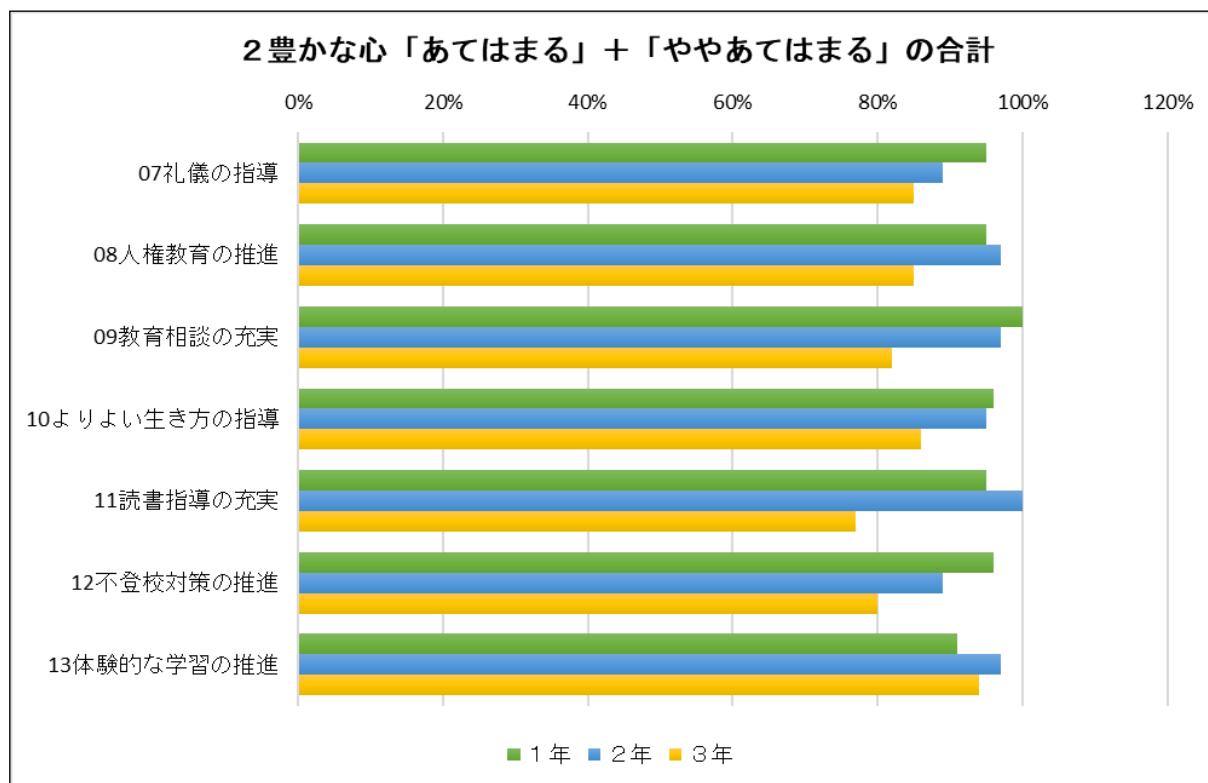
(1) アンケート調査の結果

【表2 豊かな心の育成に関する生徒、教職員、保護者の意識】

※調査数 生徒 93 教職員 11 保護者 86



【図2 豊かな心の育成に関する学年ごとの生徒の意識】



(2) 考察

① あいさつ、礼儀の状況

あいさつの状況は、生徒89%に比べて教職員45%、保護者80%とずれが大きい。指導に関して教職員の意識に差が見られることから、あいさつに関する「時、場、方法」などの共通理解を図り、共通実践を行っていくことで、よりよいあいさつのできる学校を目指していく必要がある。校内での生活だけでなく、地域社会などの生活の場で、自然とあいさつのできる態度を育成していく必要がある。

② いじめや差別を許さない学校づくり

生徒、教職員、保護者の昨年度の否定的な回答（生徒2%、教職員0%、保護者12%）から、今年度の否定的な回答が、生徒7%、教職員0%、保護者14%となっており、若干否定的な割合が増えている。人権尊重の精神は学校経営の基盤となるものである。この否定的な回答にしっかり寄り添うこと、学校生活に不安を抱えている生徒が一定数いることをしっかり受け止めなければならない。今後も、支持的風土のある集団づくり、人権感覚の涵養や他者理解などについて具体的な対策を講じていく。また、ストレスマネジメント教育やSOSの出し方に関する教育の実践をはじめ、いじめ等の早期発見、早期対応に学校総体として取り組んでいく必要がある。

③ 教育相談の充実

保護者の否定的な回答18%が、生徒、教職員に比べて高い。保護者とのよりよいコミュニケーションを大切にしながら、保護者が相談しやすい学校であるかについて、今後検討を重ねていきたい。学校での教育相談等の取組の様子を担任等が積極的に伝え、周知していく。また、日常的に生徒が相談しやすい関係づくりや場の工夫、生徒の声を聞く機会など、教職員がアンテナをより高くし、取り組んでいく必要がある。

④ よりよい生き方、豊かな心の指導

生徒92%、教職員100%、保護者89%が肯定的な回答であり、概ね良好であるといえる。しかし、この数値に安心するのではなく、教職員は、一方的に指導しているのではないか、自分の価値観を押しつけるだけの指導になっていないかなど、常に指導方法を振り返る必要がある。心に響く指導の充実に向けて、生徒に関する情報を共有するとともに、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」ことを意識した言動が必要である。

⑤ 読書指導の充実

一昨年度は生徒の肯定的な回答が51%であったのに対し、昨年度は87%、そして今年度は90%と着実に上昇している。朝の時間を基本的に読書の時間として設定したことや図書館経営（読書推進のための取組、掲示など）の充実は、この結果に大きく寄与するものである。子供たちの間にもスマートホンやタブレットが普及し活字離れが広がっており、活字に触れる機会を意図的に提供し、それをきっかけに読書の推進、充実につなげることをねらったが、今後も引き続き、本に親しむ工夫を継続していく。

⑥ 安心して登校できる学校づくり

「生徒理解」や「いじめ・不登校対策委員会」などをとおして、生徒の状況について共通理解を図り、生徒が楽しく登校できる環境づくりに努めている。必要に応じて、SCやSSWとの連携、面談等も行っている。昨年度、学校の取組に対して否定的にとらえている生徒が6%であったが、今年度は13%となっている。今後も、日常的に相談しやすい雰囲気づくりや教育相談の工夫をとおして生徒の心の状態をしっかりとつかんでいく必要がある。

⑦ 自主的・自発的な活動の推進

学校行事において、生徒が充実感や達成感を感じることができている。生徒は94%が肯定的に回答している。教職員も91%である。現在、体育大会や文化祭において生徒会

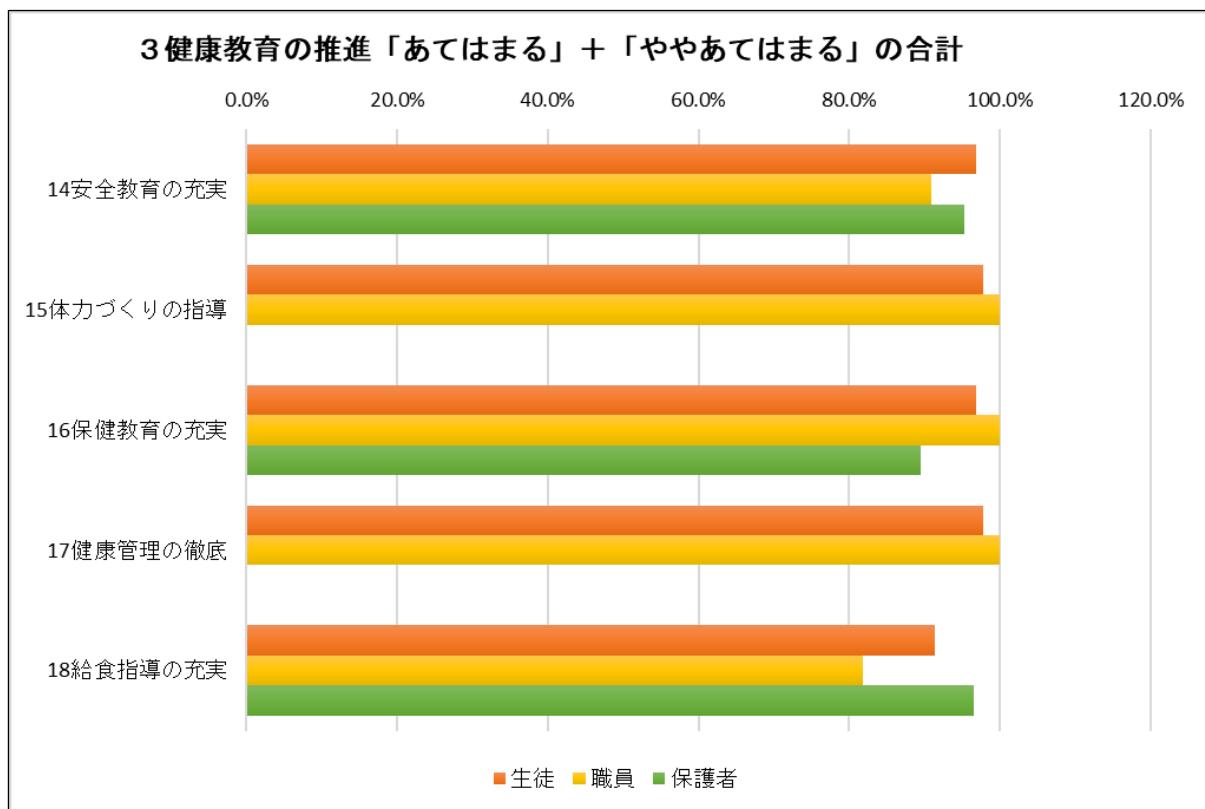
を中心とした生徒主体の取組を進めている。今後も教師が立てた企画や計画を実行させるのではなく、活動の目的や育成したい資質能力について共通理解を図り、生徒の主体的な学びや自治性、協力性を、より一層高めていく必要がある。

3 健康教育の推進

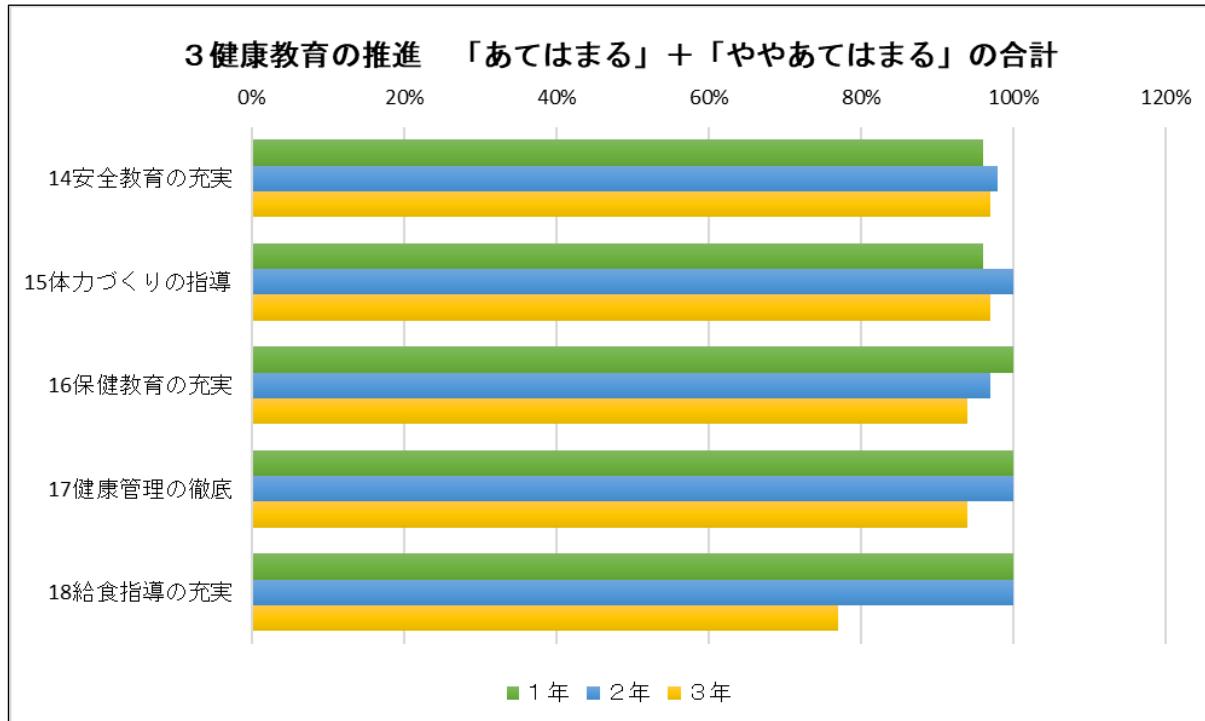
(1) アンケート調査の結果

【 表3 健康教育の推進に関する生徒、教職員、保護者の意識 】

※調査数 生徒 110 教職員 12 保護者 69



【 図3 健康教育の推進に関する学年ごとの生徒の意識 】



(2) 考察

① 安全教育の充実

学校安全、交通安全、生活安全について、生徒の実態や諸状況について教職員で共通理解を図り、事故の未然防止に努めている。このことは、生徒97%、教職員91%、保護者95%の肯定的な回答にも表れている。引き続き、学校で落ち着いた安全な生活ができるよう、危険予測や危険回避といった実践的な資質や能力を、特別活動や各教科等横断的な視点で培っていく必要がある。

② 体力づくりの指導

体育の時間における運動量を確保するとともに、体育的行事や部活動を通じて継続的な体力づくりを行っている。生徒の98%、教職員の全てが肯定的に回答している。今後も学校総体として体力づくりに向けた取組を行っていきたい。

③ 保健教育の充実

生徒の96%、教職員の全て、保護者の89%が肯定的に回答している。健康教育の計画に基づき、定期的に健康教室を実施したり、保健だよりを発行したりするなど啓発や指導を行っており、保護者の回答が高いのが特徴である。教職員がやや低めの数値になっているのは、自身の参画というところで課題を感じているのではないかと考える。

④ 健康管理の徹底

生徒の98%、教職員の全てが肯定的に回答している。ほぼ昨年度と同じであるが、今後も、日頃の健康観察等も含めた健康管理を充実させていきたい。

⑤ 給食指導の充実

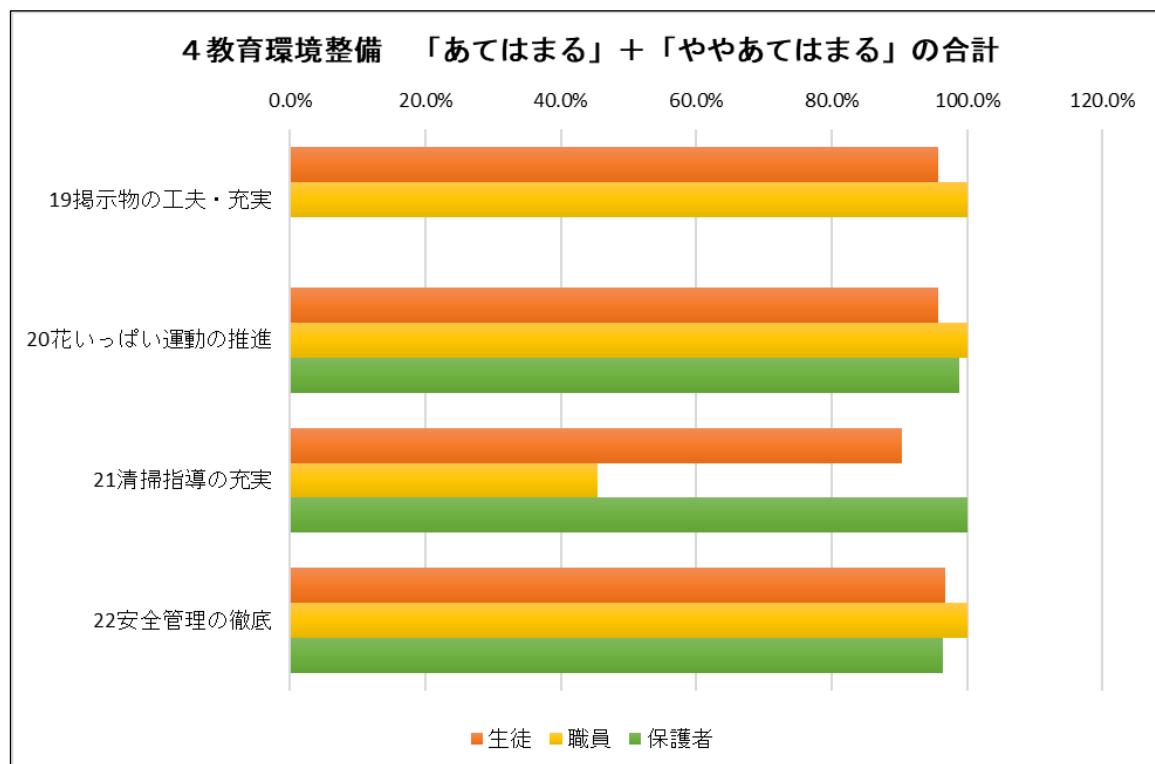
生徒92%、教職員82%、保護者97%と、この項目についても差が見られる。特に教職員が低いことについては、共通理解、共通実践などを通して、組織的な取組をしていく必要がある。

4 教育環境の整備

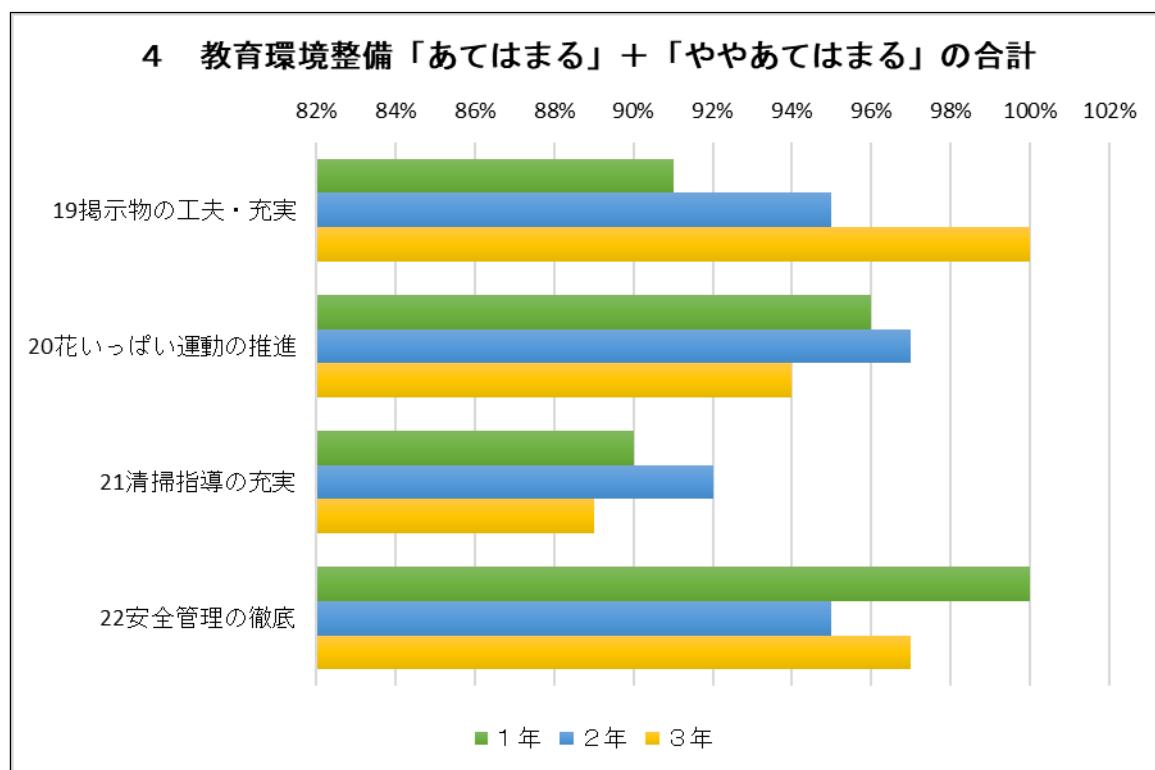
(1) アンケート調査の結果

【表4 教育環境の整備に関する生徒、教職員、保護者の意識】

※調査数 生徒 110 教職員 12 保護者 69



【図4 教育環境の整備に関する学年ごとの生徒の意識】



(2) 考察

① 掲示物の工夫・充実

生徒、教職員ともに概ね良好な回答である。掲示場所の確保や定期的な掲示物の入れ替え等、生徒の視点に立った掲示を工夫してきた。また、学級掲示についても、学級担任の工夫に加え、UDの視点から共通理解を図りながら取組を進めている。これらのことが生徒及び教職員からの良好な回答につながっていると考えられる。学校行事や教科指導、生活指導等に関しての掲示を工夫し、より生徒の立場に立った掲示となるよう、更に工夫改善を進めていく。

② 花いっぱい運動の推進

生徒96%、教職員100%、保護者99%と肯定的な回答が多い。一部の教職員の尽力によるところもある。今後は、学級花壇の整備や係・委員会活動の充実等、全生徒が関心を向けることができるよう工夫していきたい。

③ 清掃指導の充実

否定的な回答について、生徒が10%であるのに対し、教職員の否定的な回答は55%と大きくかけ離れている。掃除の意義等、本質的な指導も含め、掃除場所や割振り、指導体制等についてさらに改善を図り、生徒と教職員がともに取り組む環境づくりや生徒への働きかけが必要である。

④ 安全管理の徹底

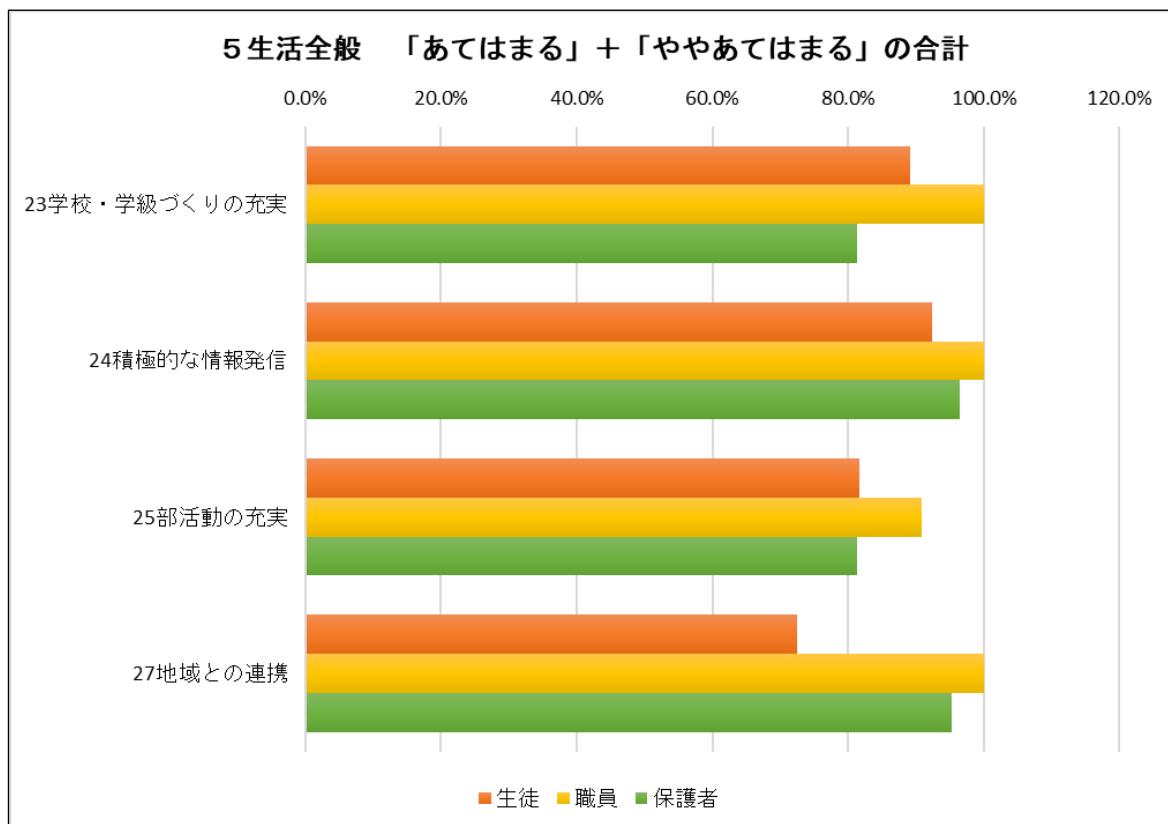
生徒97%、教職員100%、保護者96%とも、概ね良好な回答が多くみられた。可能な限り、施設の充実に努めており、年間を通して大きな事故も発生せず、課題も少なかったことが要因と思われる。しかし、油断や気の緩みは重大事の誘発要因となるため、管理体制や指導体制について再点検を行い、職員間で情報を共有し、事故防止に努めていく必要がある。近年多発している大規模な気象災害に対しては、事前の危機管理や発災後の対応マニュアルの確認など、常に危機意識をもって備えておきたい。

5 生活全般

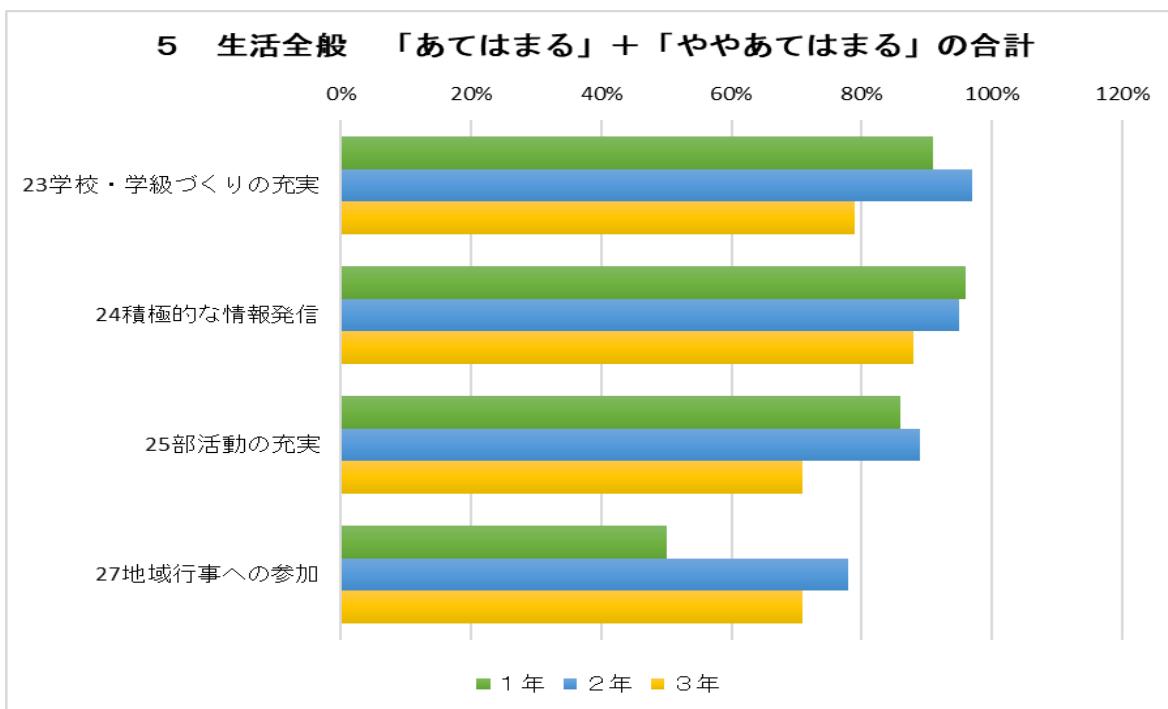
(1) アンケート調査の結果

【 図5－1 生活全般に関する生徒、教職員、保護者の意識 】

※調査数 生徒 110 教職員 12 保護者 69



【 図5－2 生活全般に関する学年ごとの生徒の意識 】



(2) 考察

① 学校・学級づくりの充実

生徒 11%、保護者 18% とやや否定的な回答が見られるものの、昨年度に比べて改善傾向である。昨年度は生徒が 25%、保護者が 27% という回答状況であった。しかし、教職員でも 10% が「ややあてはまらない」と回答しており、まだ学校としてできることについて考えていく必要がある。今年度「あてはまらない」という回答は生徒で 1% のみであったが、そういう子供たちにしっかり寄り添っていく必要がある。一人一人に居場所がある、より丁寧な学年・学級経営を組織的に行っていきたい。

② 積極的な情報発信

昨年度は保護者にやや否定的な回答が見られたが、今年度は 7% にとどまっている。学校からの情報は、教職員が学級通信、学年通信、保健だよりなどの定期的な発行、また、学校ホームページを活用したブログ形式での情報発信を行っている。本年度もキュベルを活用し、一斉メール、案内文書等の配信を積極的に行い、直接保護者に届くように改革を行った。また、学校ホームページのブログによるタイムリーな情報を随時更新し、広く学校の様子を紹介している。今後は、学校からの情報発信が確実に保護者に伝わるよう、啓発を行っていきたい。

③ 部活動の充実

部活動の指針に基づき適正な指導を行っているが、教職員が 100% の回答であるのに対し、生徒が 89% という回答をしている。保護者も 91% という回答である。入部者数の偏りや、社会体育移行の方針など、生徒のニーズも含めた課題解決に向け、部活動の在り方を検討する必要がある。

④ 特色ある教育の推進

学習者用デジタル教科書（英語・国語・数学）の活用や、各教科等で積極的に ICT 活用の充実が継続して図られている。保護者の関心も高い。授業やその他の学習活動の場面において、ごく自然に ICT の活用が図られている。小学校での蓄積も多く、山江村の一貫した取り組みの成果といえる。一方で、スマホ依存やゲーム依存など情報機器に触れる時間の長さが危惧され、SNS によるトラブルも発生しており、保護者や関係機関とも連携した取り組みが重要である。

⑦ 地域行事への参加

保護者の「地域と連携して、子どもたちを育てるように努めている」は 85%、生徒の「地域の行事に積極的に参加している」は 73% の結果であった。ほとんどの保護者は、地域との連携による教育の意識が高い。生徒の地域行事等への参加が昨年度よりも改善されている。アフターコロナとなり、地域の行事もまた増えてきており、実際の参加も多く見られた。

資料1：令和5年度 学校評価アンケートの回答状況（生徒）(93/104)

NO	項目	観点	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
確かな学力の定着	1 授業は、楽しく分かりやすい。	わかる授業の展開	17%	65%	17%	1%
	2 授業では、生徒に考えさせたり活動させたりしている。	自ら学ぶ力の育成	51%	49%	0%	0%
	3 先生は、一人一人の力を伸ばそうとしている。	個に応じた指導の充実	31%	58%	9%	2%
	4 先生は、質問に適切に答えている。	質問や疑問への対応	38%	53%	9%	1%
	5 先生は、生徒の能力や努力を適切に評価している。	学習の適切な評価と対応	33%	58%	8%	1%
	6 自分は家庭学習の習慣が身についている。	家庭学習の充実	12%	46%	33%	9%
豊かな心の育成	7 あいさつのよくできる学校である。	あいさつ、礼儀の状況	29%	60%	10%	1%
	8 先生は、いじめや差別を許さない心を育てる指導をしている。	いじめや差別を許さない学校づくり	51%	42%	6%	1%
	9 先生は、生徒が困っていることについてよく対応している。	教育相談の充実	34%	58%	8%	0%
	10 先生は、人の生き方や豊かな心の在り方にについて教えている。	よりよい生き方、豊かな心の指導	39%	53%	9%	0%
	11 先生は、読書するように勧めている。	読書指導の充実	34%	56%	9%	1%
	12 先生は、一人一人が楽しく登校できるよう努力している。	安心して登校できる学校づくり	26%	61%	9%	4%
	13 生徒会活動や学級の係活動が活発に行われている。	自主的・自発的な活動の推進	48%	46%	4%	1%
健康教育の推進	14 学校で落ち着いた安全な生活ができる。	安全教育の充実	39%	58%	2%	1%
	15 体育の授業や部活動で体力が向上している。	体力づくりの指導	54%	44%	2%	0%
	16 先生は生徒の心やからだの健康づくりについて指導している。	保健教育の充実	48%	48%	3%	0%
	17 先生は、生徒の体調が悪くなったとき適切に対応している。	健康管理の徹底	58%	40%	2%	0%
	18 先生は、給食を通して、食の大切さを教えている。	給食指導の充実	39%	53%	8%	1%
教育環境整備	19 教室や廊下等の掲示物がきちんと整備されている。	掲示物の工夫・充実	43%	53%	4%	0%
	20 学校は、花や緑が多くきれいである。	花いっぱい運動の推進	49%	46%	4%	0%
	21 掃除や美化活動に、積極的に取り組む雰囲気がある。	清掃指導の充実	30%	60%	10%	0%
	22 学校は、安全で快適な環境であり、施設が整っている。	安全管理の徹底	43%	54%	3%	0%
生活全般	23 学校へ行くのが楽しい。	楽しい学校・学級づくり	35%	54%	11%	0%
	24 学校ホームページや各種便りなどで、情報を提供している。	積極的な情報発信	34%	58%	5%	2%
	25 部活動は、自分の生活や生き方にプラスになっている。	部活動の充実	38%	44%	12%	6%
	26 (質問項目なし)	特色ある教育	—	—	—	—
	27 地域の行事に積極的に参加している。	地域との連携	16%	57%	20%	7%

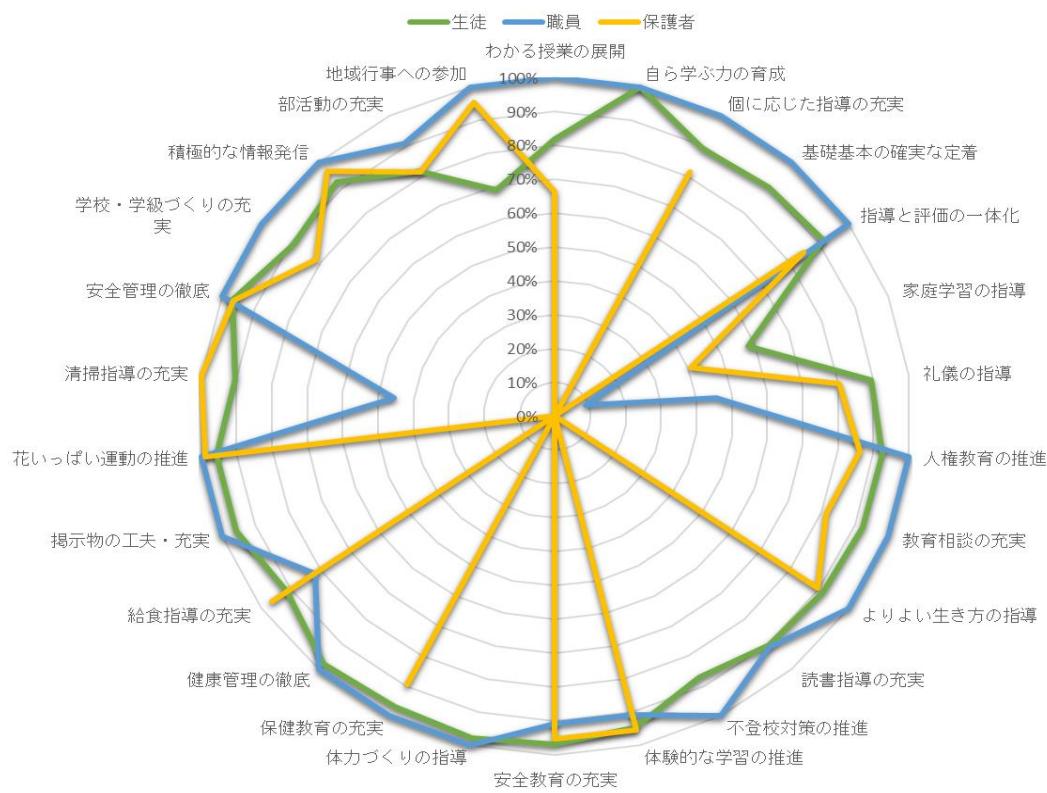
資料2：令和5年度 学校評価アンケートの回答状況（教職員）（回答 11）

NO	項目	観点	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
確かに学力の定着	1 楽しく分かりやすい授業を行っている。	わかる授業の展開	18%	82%	0%	0%
	2 授業では、生徒に考えさせたり活動させたりしている。	自ら学ぶ力の育成	36%	64%	0%	0%
	3 一人一人の力を伸ばすよう努力している。	個に応じた指導の充実	18%	82%	0%	0%
	4 生徒の質問に適切に答えている。	質問や疑問への対応	18%	82%	0%	0%
	5 生徒の能力や努力を適切に評価している。	学習の適切な評価と対応	45%	55%	0%	0%
	6 生徒に家庭学習の習慣が身についている。	家庭学習の充実	0%	9%	91%	0%
豊かな心の育成	7 あいさつのよくできる学校である。	あいさつ、礼儀の状況	0%	45%	55%	0%
	8 いじめや差別をゆるさない心を育てる指導をしている。	いじめや差別を許さない学校づくり	64%	36%	0%	0%
	9 生徒が困っていることについてよく対応している。	教育相談の充実	45%	55%	0%	0%
	10 人の生き方や豊かな心の在り方について教えている。	よりよい生き方、豊かな心の指導	27%	73%	0%	0%
	11 本を読むように指導している。	読書指導の充実	9%	82%	9%	0%
	12 一人一人が楽しく登校できるよう努力している。	安心して登校できる学校づくり	18%	82%	0%	0%
	13 生徒会活動や学級の係活動が活発に行われている。	自主的・自発的な活動の推進	18%	73%	9%	0%
健康教育の推進	14 生徒たちが学校で落ち着いた安全な生活を送っている。	安全教育の充実	18%	73%	9%	0%
	15 体育の授業や部活動で体力が向上している。	体力づくりの指導	9%	91%	0%	0%
	16 生徒の心やからだの健康づくりについて指導している。	保健教育の充実	27%	73%	0%	0%
	17 生徒の体調が悪くなったとき適切に対応している。	健康管理の徹底	55%	45%	0%	0%
	18 給食を通して、食の大切さを教えている。	給食指導の充実	18%	64%	18%	0%
教育環境整備	19 教室や廊下等の掲示物をきちんと整備している。	掲示物の工夫・充実	27%	73%	0%	0%
	20 学校の花壇には、花が植えてあり整備している。	花いっぱい運動の推進	64%	36%	0%	0%
	21 清掃指導に力を入れ、美化が徹底している。	清掃指導の充実	0%	45%	55%	0%
	22 安全で快適な環境を築くため、施設の整備に力を入れている。	安全管理の徹底	45%	55%	0%	0%
生活全般	23 学校が楽しいと言える学校・学年・学級づくりをしている。	楽しい学校・学級づくり	9%	91%	0%	0%
	24 学校ホームページや各種便りなどで情報を提供している。	積極的な情報発信	45%	55%	0%	0%
	25 部活動は、生徒たちの生活や生き方にプラスになるよう指導している。	部活動の充実	27%	64%	9%	0%
	26 (質問項目なし)	特色ある教育	—	—	—	—
	27 地域と連携して、子どもたちを育てるように努めている。	地域との連携	36%	64%	0%	0%

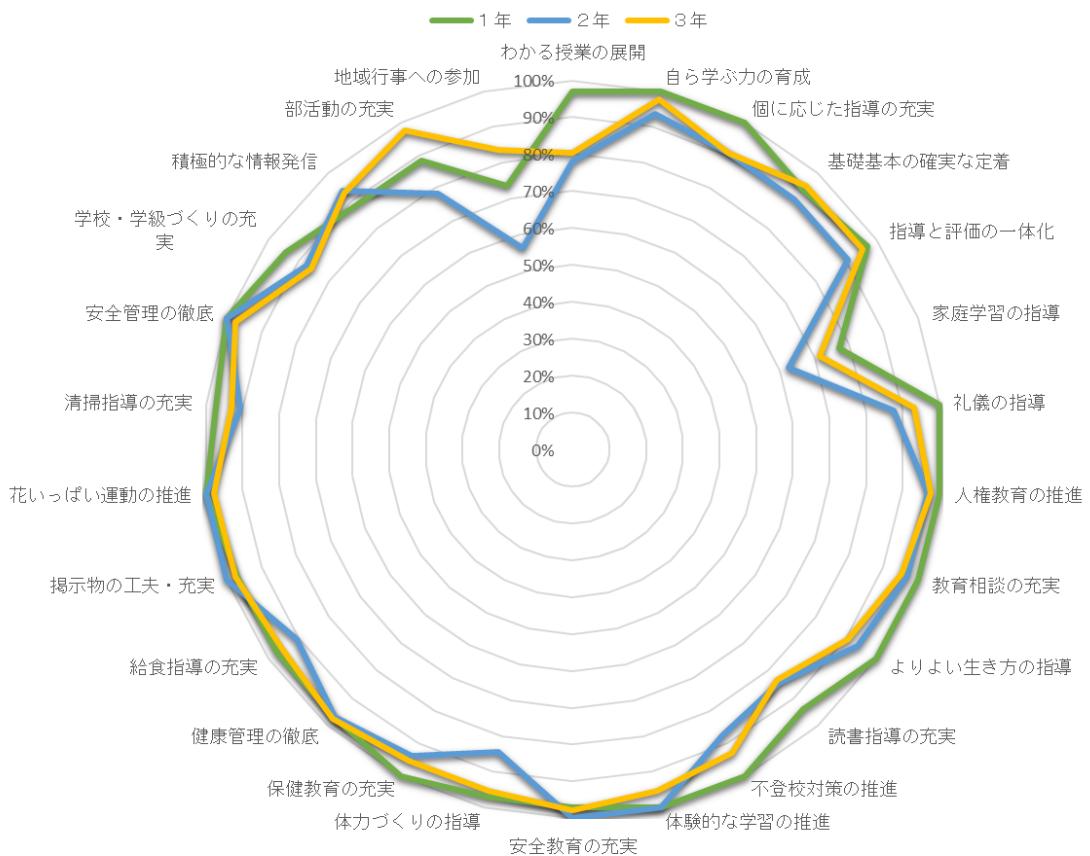
資料3：令和5年度 学校評価アンケートの回答状況（保護者）（回答 86/94）

NO	項目	観点	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
確かな学力の定着	子どもは、授業が楽しく分かりやすいと言っている。	わかる授業の展開	8%	58%	34%	0%
	(質問項目なし)	自ら学ぶ力の育成	—	—	—	—
	学校は、一人一人の力を伸ばすよう努力している。	個に応じた指導の充実	20%	62%	17%	1%
	(質問項目なし)	質問や疑問への対応	—	—	—	—
	学校は、子どもの能力や努力を適切に評価している。	学習の適切な評価と対応	16%	69%	15%	0%
	子どもに家庭学習の習慣が身についている。	家庭学習の充実	12%	29%	43%	16%
豊かな心の育成	子どもは、あいさつがよくできている。	あいさつ、礼儀の状況	22%	58%	16%	3%
	学校は、いじめや差別をやるさない心を育てている。	いじめや差別を許さない学校づくり	19%	67%	13%	1%
	学校は、子どもが困っていることについてよく対応している。	教育相談の充実	27%	55%	17%	1%
	学校は、人の生き方や豊かな心の在り方にについて教えていている。	よりよい生き方、豊かな心の指導	23%	66%	10%	0%
	(質問項目なし)	読書指導の充実	—	—	—	—
	(質問項目なし)	安心して登校できる学校づくり	—	—	—	—
健康教育の推進	子どもは、学校で落ち着いた安全な生活を送っている。	安全教育の充実	35%	60%	5%	0%
	(質問項目なし)	体力づくりの指導	—	—	—	—
	学校は、生徒の心やからだの健康づくり努めている。	保健教育の充実	31%	58%	10%	0%
	(質問項目なし)	健康管理の徹底	—	—	—	—
	学校は、給食を通して、食の大切さを教えている。	給食指導の充実	48%	49%	3%	0%
	(質問項目なし)	掲示物の工夫・充実	—	—	—	—
教育環境整備	学校の花壇には、花が植えてあり整備されている。	花いっぱい運動の推進	51%	48%	1%	0%
	学校は、清掃指導に力を入れ、美化が徹底されている。	清掃指導の充実	45%	55%	0%	0%
	学校は、安全で快適な環境を築くため、施設の整備に力を入れている。	安全管理の徹底	44%	52%	3%	0%
	(質問項目なし)	—	—	—	—	—
生活全般	子どもは、学校が楽しいと言っている。	楽しい学校・学級づくり	31%	50%	19%	0%
	学校のホームページや各種便りなどで、情報を提供している。	積極的な情報発信	38%	58%	3%	0%
	部活動は、子どもたちの生活や生き方にプラスになっている。	部活動の充実	27%	55%	17%	1%
	学校は、特色ある教育（ICT 教育等）に積極的に取り組んでいる。	特色ある教育	63%	35%	2%	0%
	地域と連携して、子どもたちを育てるように努めている。	地域との連携	29%	66%	3%	1%

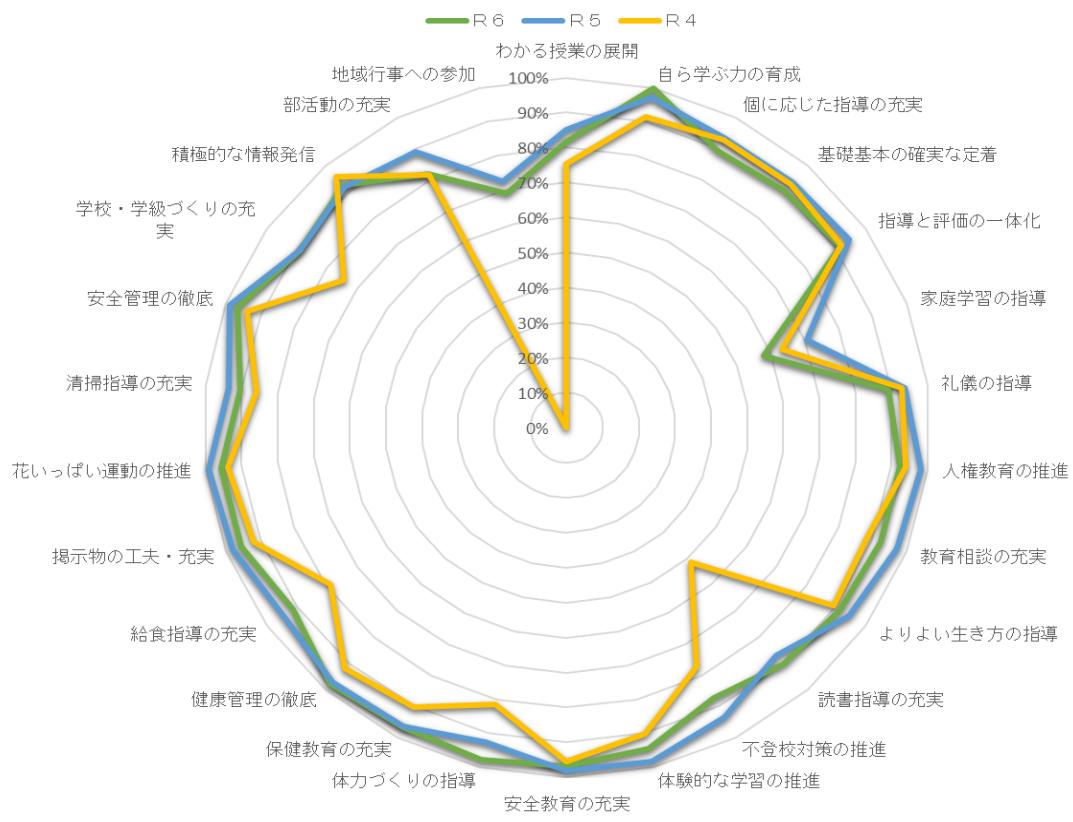
資料4 令和6年度生徒・職員・保護者の比較



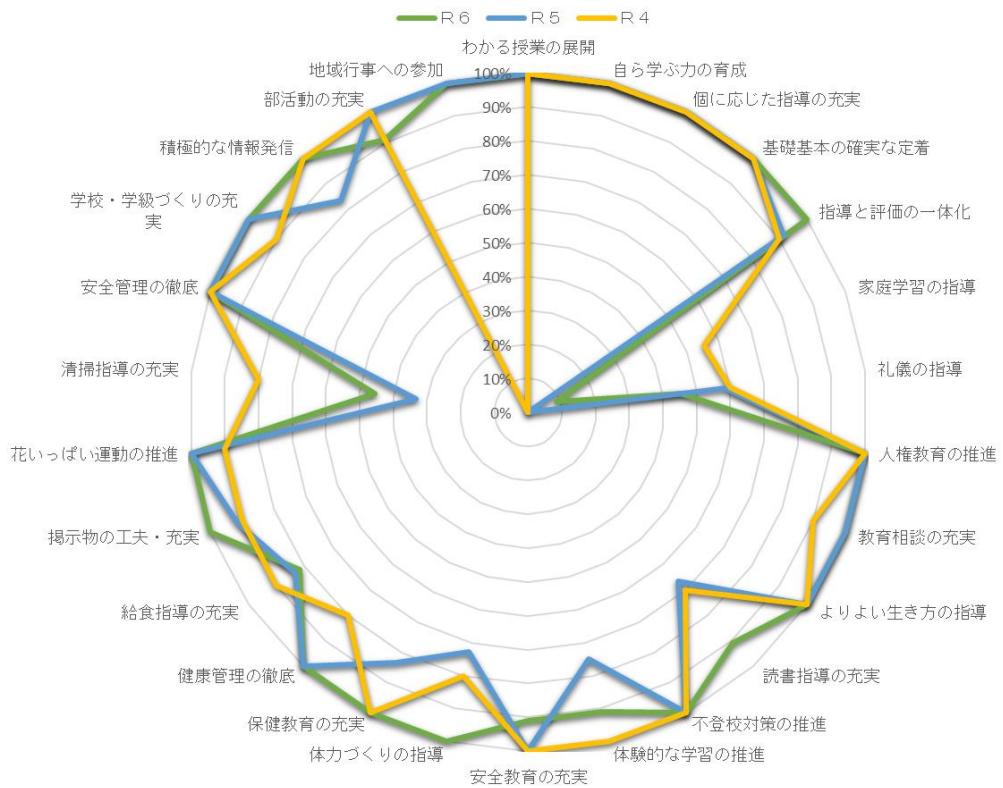
資料5 令和6年度学校評価（生徒の学年比較）



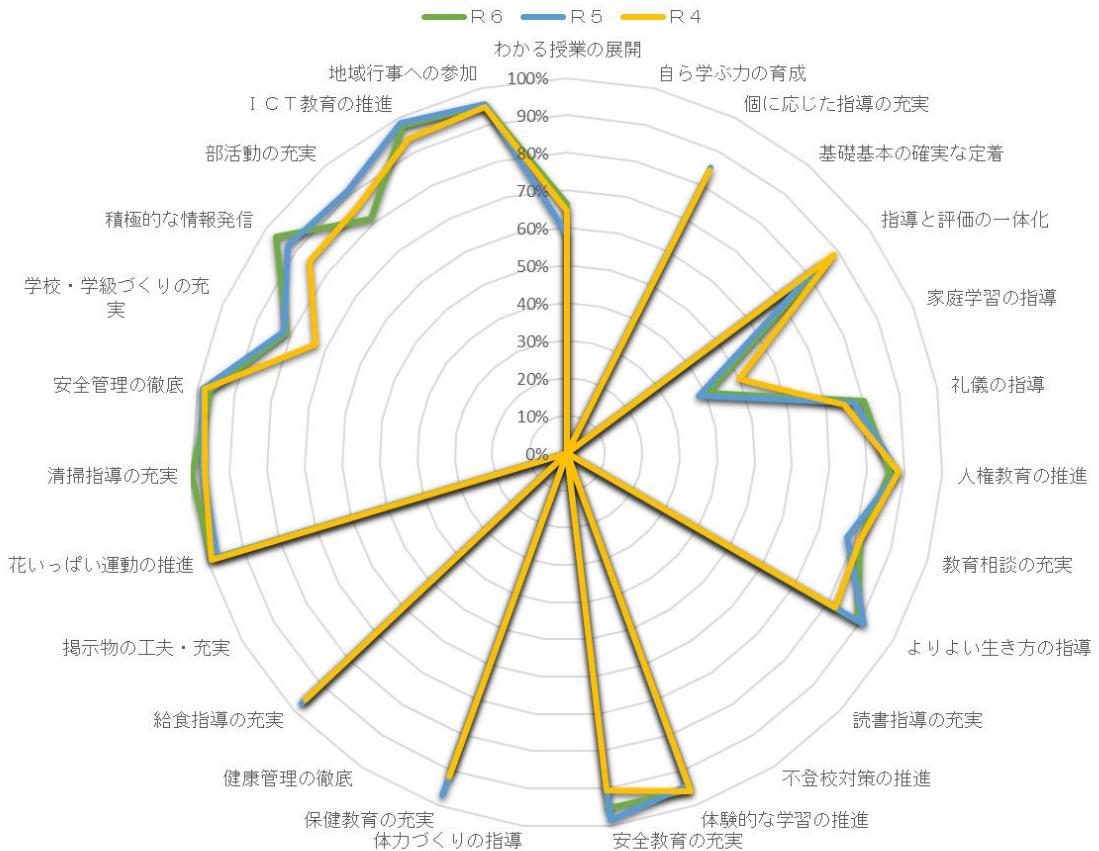
資料6 令和6年度 年度比較（R6・5・4）【生徒】



資料7 令和6年度 年度比較（R6・5・4）【職員】



資料8 令和6年度 年度比較（R6・5・4）【保護者】



資料9：保護者アンケート記述

学校と家庭が一体となって、学校教育をよりよく推進していくために、何かありましたらご記入ください。

【3件】

- ・人権について、障害について、詳しくわかりやすいよう生徒に対しての説明や、先生一人一人の認識がまだまだだと思います。
- ・将来の目標がもてるように、様々な職種の人を招いての課外授業などを行ってほしい。
- ・先生も生徒も保護者も様々な人がいて、三者がそれぞれに大変なんだと思う。自分も実際に大変だと感じることがよくある。他人に対する心遣いが三者とも足りていないからだと考える。自分を愛せ、自分を大切にといった教育の弊害ではないか。相手を思いやれない人間の自分愛はただのわがまま。親も学校もそれを子供に教えるべきだと思う。